

# 寝宿における人間関係と「老い」

## 釜志町釜志の事例から

Human Relations in *Neyado* and Old Age:  
On Case in Toshi, Toshicho (Mie Prefecture)

宮前耕史

はじめに

①調査地および現代における寝宿慣行の実態

②「朋友会覚え帳」にみる交際

③宿親—宿子関係の社会福祉的役割

まとめ

### 【論文要旨】

寝宿における人間関係には、宿親と宿子との関係そして宿子同士の関係との2種が存在する。そして従来、寝宿のもっていたとされる婚姻媒介の機能が注目されたため、そこにおいて形成あるいは組織される人間関係についても同様の視点からアプローチされることが多かった。すなわち宿親と宿子との関係に関しては、その他の成年期に結ばれる擬制的親子関係とともに、宿親の担当する仲人という役割が注目され、宿子同士の関係については兄弟分・若者組あるいは若者仲間といった視角から関心が集まった。

しかし、そうした人間関係に関する研究が従来指摘してきたように、それらの関係は宿子たちの婚姻成立をもって解消されるわけではない。本稿では従来指摘されながらもあまり省みられることのなかった宿子たちの婚姻成立以降における上記2種の人間関係における交際の実態について三重県鳥羽市の事例から報告する。

宿子たちの両親や宿親、その家族は、自らの「老い」との関連において宿子たちに社会福祉的役割を期待している。そしてそのことが、現代において文字通り寝宿の親—子関係として、擬制的親子関係を成立させている当地の特殊性を可能たらしめているのである。

キーワード：若者組，兄弟分，老い，擬制的親子関係，社会福祉